

# 文書館だより

Fukui Prefectural Archives



▲「北国白山天嶺之図」(勝見宗左衛門家文書B0037-00623当館蔵)

## 第13号目次

特集 叢書紹介「誠ニ古今珍敷」 .....	2
資料紹介1 スペインかぜの大流行と福井県 .....	3
資料紹介2 桜井市兵衛家文書の浄瑠璃本について .....	4
資料紹介3 れいめい福井博開催要綱 .....	6
活動報告 .....	7
お知らせ .....	8

第13号  
2009.3  
福井県文書館

◆◆ 特集 叢書紹介 ◆◆

まこと ここんめずらしき  
「誠ニ古今珍敷」

—『資料叢書』でわかる小浜町人がみた幕末ふくい—

このほど刊行された福井県文書館資料叢書第3巻『若狭国小浜町人の珍事等書留日記』では、小浜の米商人、井筒屋勘右衛門の日記を取り上げました。

幕末から明治維新にむかう激動の時代に、井筒屋は小浜藩の米手形（藩札）役所の御用達をつとめた有力町人のひとりでした。米穀商として米価・穀物価等の変動を記録し、洪水や地震・伝染病の流行などの「珍事」（珍しいできごと）を丹念に書きとめています。

あわせて、おもだった町人として小浜城下での天保の大飢饉のようす、幕府や藩からの御触書（法令）、藩の財政改革にかかわる「仕法」（方策）など知りえた情報を的確に記していました。

日記の内容には、安政期（1854～60年）を過ぎると、変化があらわれてきます。爆発的な世界的流行の一端をなすコレラの蔓延（1859年）、異国船の到来に備えた城下での台場築造・改修と大規模な訓練（軍事訓練）、さらには開港場選定のために日本海側の港湾を測量していた英国軍艦の入津（67年）、明治新政府軍の北陸道鎮撫使の来浜（68年）など、一地方の町人の記録にも激動の時代の世界史的なつながりが浮かびあがってきます。

さらに興味深いのは、飢饉時に米廉売や施粥の運営を支えた井筒屋の視線は、不安定な時代にかえて賑わいを増すかにみえる祭りや催しにも注がれていることです。寺社の祭札や開帳、能、狂言、浄瑠璃、相撲などの諸興行の盛衰が細かに触れられ、地域文化をうかがい知ることができる厚みのある記述となっています。

さまざまな関心から、ご活用いただけることを願っています。



▲3冊の書留日記（表紙）小浜市立図書館蔵  
このうち中央の冊子全頁と右冊子「当所出火」部分を活字化。



▲小浜藩札（鶴札表・裏）  
桜井市兵衛家文書 当館蔵

▲「明治四年町絵図」小浜市立図書館蔵 下部には、川崎町に築かれた砲台を設置する台場が描かれています。

◆◆ 資料紹介 1 ◆◆

# スペインかぜの大流行と福井県

日々のニュースで鳥インフルエンザの発生が大きく取り上げられ、「感染列島」と題した映画が人気を博し、トリからヒトへの感染、そして鳥インフルエンザが変異してヒトからヒトに感染する新型インフルエンザの発生とパンデミック（世界的大流行）が世界的に危惧されています。

ところで、インフルエンザ・パンデミックの発生が科学的に証明されているのは20世紀に入ってからのことだそうですが、今日まで発生したいくつかの大流行のうち、今から約90年前の1918年（大正7）から1920年にかけて日本で大流行したスペインかぜは、国立感染症研究所によれば、全世界人口の25～30%あるいは3分の1が罹患し、死亡者数は4,000万人とも5,000万人とも、一説には1億人に及んだとされています。日本においても、当時の内務省の調査によれば2,380万人余の患者と38万人余の死亡者が出ています（内務省衛生局『流行性感冒』1922年、P85）。

『流行性感冒』によれば、福井県での流行の初期は1918年9月下旬で、「最も早く発生ヲ見タル」6県の一つとされ、翌年1月15日迄の福井県の患者数は233,003人、死者数は3,727人に及びました（同書P85）。

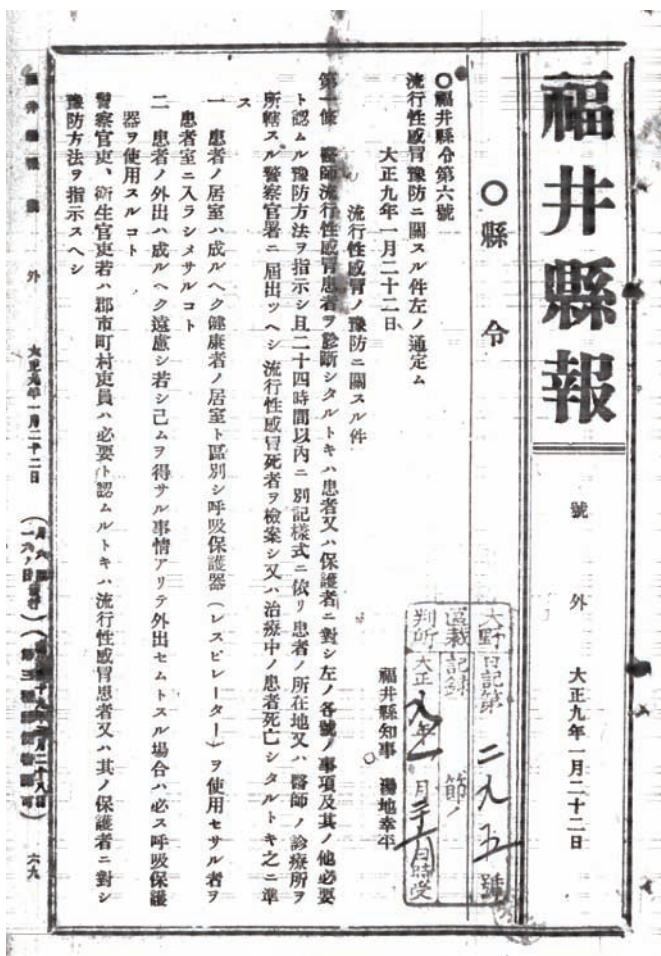
こうした状況に対して福井県ではどのような対応を行ったのでしょうか。

残念ながら、本県では戦災と震災の影響からか、戦前の公文書の残りは極めて少なく、公文書原本でその対応を直接知ることはできません。しかし、福井県が発行した公報「福井県報」が県内外に残されており、当館ホームページで検索したり、当館閲覧室で写真複製の冊子で閲覧することができます。

大正9年1月22日付け「福井県報号外」には、スペインかぜ大流行への対応として「流行性感冒予防ニ関スル件」（福井県令第6号）等が所収されています（写真）。それによれば、医師が流行性感冒患者と診断した場合は所管する警察官署へ届け出るとともに、患者や保護者に「呼吸保護器（レスピレーター）」の使用など予防方法を指示すること、患者に対しては速やかな医師の治療を受けること、学校や活動写真館等の「多衆ノ集合スル場所」や「客ノ来集ヲ目的トスル場所」での罹患者の業務従事禁止、流行性感冒流行地と指定された地域での拡散防止のための遵守事項などが定められていました。

もちろん、約90年前と現在とでは県民が置かれた環境は当然異なっているでしょうが、制定された「流行性感冒予防ニ関スル件」からも危機に直面し大流行を食い止めようとする緊迫感が伝わってきます。

◀「福井県報号外」1920年（大正9）  
福井県立図書館写真提供



## ◆◆ 資料紹介 2 ◆◆

# 桜井市兵衛家文書の浄瑠璃本について

早稲田大学高等研究所 客員准教授（専任扱い）<sup>こうづたけお</sup> 神津武男

### 〔浄瑠璃本とは何か〕

「浄瑠璃本 じょうるりほん」とは、「人形浄瑠璃 にんぎょうじょうるり」の台本・脚本をさす。「人形浄瑠璃」は、「人形戯」（人形を操作してみせる芸能）と、「浄瑠璃」（太夫による語りと、三味線の伴奏から成る音楽）とが、江戸時代はじめの京都の興行界で、合体して出来た演劇である。人形浄瑠璃成立からおよそ百年のち、最後に興った流派「義太夫節 ぎだゆうぶし」は、竹本義太夫（初代。のちの竹本筑後掾）が貞享初め（1684-85）、大坂の道頓堀の興行街で初めて興行した時を創始時期とする。義太夫節の草創期には、著名な作者「近松門左衛門 ちかまつもんざえもん」がある。創始者の死を以て一座解散となる旧弊に異なり、義太夫の没後も劇団は存続し、門弟らは京都・江戸に進出し、ついに中央（大坂・京都・江戸）の人形芝居興行界は義太夫節に独占された。18世紀大坂の経済都市としての繁栄に連れ、さらなる隆盛を誇った。本稿でいう「浄瑠璃本」とは、この義太夫節の本に限る。

### 〔浄瑠璃本の拡がり〕

「浄瑠璃本」は単に演劇台本であるに留まらず、読み物としてひろく流通した。江戸時代の出版物で日本全国に現存・伝来するものは、筆者のみるところ、浄瑠璃本と謡本とに限られるようである。中世演劇である能楽と、近世演劇である人形浄瑠璃の、その脚本・台本のみが、江戸時代に全国的に伝播した文学書なのである。さらにいえば支配層たる武家の基礎教養書である謡本が全国に流布するのは当然で、そのような社会的な制度・必然性を背景に持たない浄瑠璃本が、全国に流布した点をより重視すべきである。

このような観点から、筆者は「浄瑠璃本は、日本国内にどれほど残るのか」との調査に取り組み、国内の公共機関（図書館・博物館・文書館・歴史民俗資料館など）を尋ね歩き、結果1都1道2府40県、266機関に、20,499点を数えた。すでに調査を終えた5個人（今後寄贈を予定されている）の蔵書も含めて、国内の公共機関に所蔵される浄瑠璃本の点数は、二万二千点を超えることになる。義太夫節の人形芝居の初演にかかり、通し本の残る作品は、六百三十。これに二万二千点が日本国中に残るのである。この点から筆者は、浄瑠璃本を近世・近代の日本における〈国民文学〉であった、と唱えている。



◀ 『浄瑠璃二重染』  
桜井市兵衛家文書  
N0055-00956  
当館蔵

### 〔浄瑠璃本の種類と性格——桜井家文書の新出本〕

「浄瑠璃本」一作品の上演には日ノ出から日ノ入までおよそ11時間を要する。その作品の全文を収めた本を「通し本 とおしほん」、一部を抜き書きにした「抜き本 ぬきほん」とがある（上記所在調査は「通し本」を数えたもので、中途の段階ながら現時点で「抜き本」も同程度残存して、合わせると四万五千点に近い）。

「通し本」が読み物として流通したのに対して、「抜き本」は義太夫節の稽古者たちの需要に応えたものである。19世紀以降、稽古者たちの好みは変化し、「段物 だんもの」と呼ばれる演劇的な部分（90分ほど）を選んだが、18世紀の稽古者たちは、「道行 みちゆき」「景事 けいごと」「節事 ふしごと」などの、より音楽的な部分（30分ほど）を選んだ。複数の作品の「道行」や「景事」を編集したものが、「道行揃みちゆきぞろえ」である。

福井県文書館・桜井市兵衛家文書には浄瑠璃本8点があり、内訳は、通し本5点、道行揃3点。驚いたのは道行揃3点がいずれも天下一本（てんかいっほん。他に同名書の存在の知られていない孤本）、新出本である。

「道行揃」は年初を中心、五節句を目処に新刊本が出たものようである。直近の最新作を巻頭に据え、あるいは書名を替えて新規さを装うが、所収曲の大半は定番（スタンダードナンバー）である。『浄瑠璃二重染』（資料番号00956）の冒頭標題は「名こりの橋づくし」。享保5年12月初演『心中天の網島』からの収録で、翌6年（1721）正月の刊と推定される。所収最新曲の初演の、翌年正月の刊行と推定すると、『浄留利こうけ鶯』（資料番号00957）は享保13年（1728）、『音曲蝶花形』（資料番号00958）は元文2年（1737）と考える。

また『曾根崎心中』（資料番号00954）8行24丁本も、新出本。世界文学史上に名高い作品であるので詳細は略すが、元禄16年（1703）の初演時に出た海賊版（非正規な出版）のひとつ。同板本（同じ板木で摺った本）としては、正徳5年（1715）に『曾根崎心中十三年忌』として改題・再演された際、増補部分（の板木）を補った、後摺本の存在が知られていた。しかし増補以前の状態で残存が知られていなかったが、桜井家本がそれ。増補以前の姿での新出本である。

筆者は以前、富山県・黒部市立図書館収蔵の古文書中に、『曾根崎心中』初板初摺本の完本を新たに見出した。筆者の浄瑠璃本調査は、各地における古文書調査の成果を受けたものであって、この意味において福井県文書館の今後の調査活動の進展に期待するとともに、県下関係者諸氏の一層の御協力を念願するものです。



▶『曾根崎心中』  
桜井市兵衛家文書  
N0055-00954  
当館蔵

◆◆ 資料紹介 3 ◆◆

# れいめい福井博開催要綱

1962年(昭和37) 経済部 3049-2



▲ 奉迎の人々でうめつくされた「れいめい福井博」会場の福井市体育館 1962年(昭和37) 福井県広報写真61096

◀ れいめい福井博開催要綱 1962年(昭和37) 経済部 3049-2



1962年(昭和37)4月21日、福井市体育館を会場にして「れいめい福井博」(正式名称—ふくい産業交通博覧会)が、天皇皇后両陛下をお迎えて開幕しました。博覧会は天皇皇后両陛下の行幸啓と北陸トンネルの完成を祝って開かれたもので、出品点数約6,000点の大規模な博覧会でした。この「れいめい福井博開催要綱」は、昭和37年度当初予算要求説明資料に関する公文書の中に、参考資料として添付されていました。

博覧会の会場に入ると、まず、県の花水仙に飾られた観光コーナーがありました。福井県の観光地の四季を色どるパノラマがあり、永平寺の勅使門を型どったアーチがありました。北陸トンネルの開通により、5時間以上かかっていた福井—大阪間が、2時間50分に短縮されたので、関西方面などからの観光客に本県の観光資源をアピールするのがねらいでした。アーチをぬけるとガラス繊維コーナーと雑貨コーナーがありました。雑貨コーナーでは、眼鏡枠、打刃物、手すき紙などの代表的特産品がならんでいました。このコーナーを過ぎると、福井県総合開発10ヶ年計画パノラマがありました。高速自動車道路や敦賀湾・小浜湾を中心とする臨海工業地帯など未来の本県の様子がわかるようになっていました。また、水力発電所の状況を説明した奥越電源開発パノラマや原子力発電所模型、足羽山山頂に月見展望台やヘルスセンターがつくられた足羽山観光開発パノラマなどがありました。さらに進むと人絹織物などが展示された繊維製品コーナーがあり、最後に北陸トンネルの完成を祝ってつくられた交通コーナーがありました。10日間開催された博覧会は、福井県の将来の夢を体現したもので、まさに福井県の黎明(夜明け)を告げるものでした。

## ◆◆ 活動報告 ◆◆

### 出張授業

#### 「教科書から見える明治時代—変体仮名を読んでみよう」

開催日：平成20年10月22日（水）

開催時間：14:00～15:00

越前市内の高校にて、3年生の日本史の授業を選択している生徒を対象に出張授業を行いました。明治時代に書かれた教科書から出てくる時代背景を学びました。また、実際に変体がなの読み書きも練習し、多くの生徒が興味をもって取り組みました。



### 生徒の感想より

- 普段の授業と違ってとても新鮮でした。今度、教科書や資料集に掲載されている資料を読んでみたいと思いました。家に帰って、両親に授業でもらった資料を見せたら、興味しんしんでした。
- 文献を読むことが歴史を知るための近道であり、また最も重要なことだとわかりました。美術館や博物館に行って書いてあることがわかったら楽しいだろうと思いました。今は受験で自由な時間はありませんが、自由に時間が使えるようになったら、昔の文字を学びたいと思いました。

### 県史講座

#### 「朝倉孝景の戦国守護化の過程について」

開催日：平成21年2月7日（土）

開催時間：13:30～15:30

講師：福井県史研究会会長 松原 信之 氏

守護斯波氏と守護代甲斐氏の対立に始まった長禄合戦を勝利に導いた朝倉孝景は、応仁の乱を契機に国人領主層から一躍にして戦国守護化の道を歩むことになりました。この戦国大名の先駆者となった朝倉孝景についてご講演いただきました。



松原 信之 氏



県史講座の様子（多目的ホール）

### 古文書読解講座

開催日：毎月第4金曜日

開催時間：13:30～15:30

古文書がある程度読めるようになった中級者の方を対象に、毎月1回古文書の輪読をしています。講座の参加者を募集していますので、お気軽に文書館へお問い合わせください。



## Cover Photo Story

### 表紙写真：「北国白山天嶺之図」江戸時代

（勝見宗左衛門家文書B0037-00623 当館蔵）

中央の御前峰、左の大汝峰、右の別山の三峰からなる山頂と、そこに至る登山道である禅定道を描いています。江戸時代、白山の「天嶺」（山頂付近）は平泉寺の境内とみなされ、同寺の管理下にありました。この絵図は、仏画師中西誠応が描き、平泉寺の名で出版されたものです。



# お知らせ

## 講座のご案内

### ■ 古文書入門講座

平成21年 6月20日(土) 13:30~15:30

平成21年 6月27日(土) 13:30~15:30

平成21年 7月 4日(土) 13:30~15:30

定員：40名(要申込) 無料

講師：文書館職員

会場：文書館研修室

※問い合わせ・申込みは文書館まで。

## 文書館収蔵資料展示のご案内

平成21年 4月 「まこと こきんめずらしき誠ニ古今珍敷」

－小浜町人が見た幕末ふくい－

平成21年 5月 「農業をおこす」(仮)

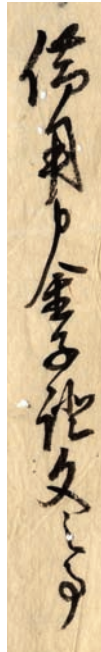
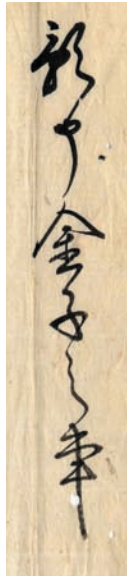
－明治の農書・教科書－

会場：文書館閲覧室

## ミニ古文書講座

何と読むでしょうか？(※解答は右下にあります。)

い ろ は



## ご利用案内

### ■ 開館時間

午前9時から午後5時まで

### ■ 休館日

月曜日(休日は除く)

休日の翌日(土、日、休日は除く)

文書等点検期間(年間10日以内)

年末年始(12月28日～1月4日)

清掃整理日(12月以外の第4木曜日、休日の場合は翌日)



## 新聞やテレビで、県の情報をキャッチ！

- 新聞 「県からのお知らせ」  
(毎月1日、15日に掲載)
- テレビ番組 「おはようふくい730」(FBC/日曜)  
「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)  
「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)
- 広報誌 「グラフふくい」(毎月10日発行)  
※ラジオやインターネットでも提供中。

問：県広報課 TEL.0776-20-0220

## 編集後記

たより第13号をお届けします。今号では、3月に刊行しました叢書『若狭国小浜町人の珍事等書留日記』を特集しました。今後とも皆さまに文書館を利用させていただくためにさまざまな取り組みを行っていきます。

## 文書館だより Fukui Prefectural Archives 第13号

平成21年3月24日発行

編集・発行/福井県文書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891

ホームページアドレス <http://www.archives.pref.fukui.jp>

電子メールアドレス [bunshokan@pref.fukui.lg.jp](mailto:bunshokan@pref.fukui.lg.jp)



健康長寿の福井

09.03.11398